

日本記者クラブ会報

第434号
2006年
(平成18年)
4月10日発行

〒100-0001
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル
© 社団法人 日本記者クラブ
http://www.jnpc.or.jp



再会のゲストルーム

代表権者 朴権恵

ことで4人の有力候補者と会った。团长はいつも、最後にクラブのマーク入りの記念品を贈ってお礼を述べ、東京へ来る機会があれば「ぜひ日本記者クラブで会見を」と。

1カ月もしないうちに、それが実現した。写真は昼食会(3・9)開始前、貴賓室での再会記念ショット。朴代表は初訪日、小泉首相だけでなく、ポスト小泉の有力候補などとも

精力的に会談した。

一行が随員と同行記者を含めて約50人だったこともあり、200人近い昼食会になった。取材団の团长だった朝日の若宮論説主幹が司会を、副团长の一人だったNHKの影山解説主幹が代表質問に当たってくれた。青瓦台から小学校に通い、両親の非業の死に見舞われ、いま民主化された韓国で、初の女性大統領に一番

近い位置にいる朴代表。その人物、人柄、政治力などを、自分の目と耳で確認しようと、松山幸雄名誉会員、白木東洋元専務理事などのほか、各社の論説・編集・報道幹部の出席が目立った。

微妙な時期だけに、ストレートに記事になる発言は期待できなかったが、その人と成りに接するということ意味で、司会団に人を得たこともあり、会員の満足度が極めて高い昼食会になった。

会見・研究会のアーカイブ

ぜひ一度クラブのホームページを開いてみてください。ヤフーでもGoogleでも「日本記者クラブ」で簡単に検索できるので、試していただきたい。クラブで行われた歴史的な会見や、最近の会見・研究会などの内容を収録している「資料室」の速記録がウリ。なかなか持ち場を離れられない在京の一線記者、地方で仕事をしている人たちに「磨けば光る原石が転がっているよ」と教えてあげていただきたい。

最近、追加した71年ヴィンテージものは①初訪中後の竹入公明委員長(7・20)②金・ドル交換停止声明後の柏木大蔵省顧問(8・31)③ニクソン訪中計画発表後に来日のレーガン特使(10・23)。温故知新、急がばまわれとも。

包装用紙に手をかける暇もおかねもないけど、中身は充実。メディアを問わず、ジャーナリストとして良い仕事をしたと思う人たちの自己研さんの場にもなると思うので、社内報などで紹介してほしい。

ラウンジに喫煙コーナーを

3月の総会で新年度予算が決まった(16P参照)。特別会計の資産準備積立金を一部取り崩し、ラウンジの奥に独立した喫煙室(一度に立って5人程度で利用可)をつくることも認められた。

これは施設運営委員会(石村英二郎委員長)が1年かけて検討してきたもの。これまでラウンジは分煙だったが、愛煙家の方からも小さな個室を希望する声寄せられていた。工事は5月の連休に行う予定。完成した時点から、ラウンジは禁煙になる。9階食堂前の吸煙機の台数も増やすので、ご理解を。

(専務理事 岩崎 玄道)

口の悪い会員諸氏は、この手の写真を見ると、すぐ「美女と野獣」というだろう。否、7人のナイトである。5日間寝食をともにした、へそ曲がりの弁なので、信じていただきたい。

2月に訪韓したクラブ取材団が、ソウルで最初に会見したのは朴権恵ハンナラ党代表だった。前号既報のように取材団はポスト盧武鉉という

中川 秀直 自民党政調会長

3・3(金) 昼食会 司会 国分俊英理事
影山日出夫委員 出席 176人

▼上げ潮政策と日中関係を語る

新聞記者出身の中川政調会長が初登場とはいささか意外だった。皇室典範改正見送りで求心力が低下したかに見えた小泉政権は、メール問題での民主党の自滅によって息を吹き返した。中川氏も意気軒高で、当面の課題から「ポスト小泉」まで縦横に語った。

まずはメール問題。「民主党の失敗は改革競争路線から抵抗政党路線に逆戻りしたこと。再び改革競争路線に戻るべきだ。その方が自民党にとって脅威だが、国益にとっては望ましい」と余裕たっぷりだった。

持論の上げ潮政策を語る口調には力がこもった。「構造改革は緒についたばかり。小さな政府を推し進めて名目4%成長をめざすべきだ。生産性を上げれば十分実現可能な数字だ」。官僚ベースの増税路線に乗せられてなるものかという政治家の意地が感



じられた。

2月に与党訪中団を率いて中国側と率直な意見交換した実績を踏まえ「関係改善に向けた一定の地ならしはできたと思う。中国は高い成長を続けており、対等な日中関係を築く上でも、日本は高めの成長をめざす必要がある」と語った。靖国参拝問題では「ポスト小泉の争点にすぎない。行くか行かないかは個人の自由だ」と述べたが、随所に慎重なニュアンスをうかがわせた。

その「ポスト小泉」では「できれば小泉首相並みの50%程度の支持率がとれる人、官僚の言いなりにならない人がいい。短期政権では困る」と語り、安倍晋三氏支持をかなり明確に打ち出した。

日本が高い経済成長をめざす上でアジア、特に中韓との関係改善は極めて大事である。そのため中川氏は「ポスト小泉」に向けてもっと積極的な役割を果たすべきだろう。

日本経済新聞論説

副主幹兼編集委員

安藤 俊裕

山崎 拓 衆議院議員

3・6(月) 昼食会 司会 安川健児理事
山田孝男委員 出席 142人

▼在日米軍問題と政局の主導権



「政局」の本来の字義は「さしあたっての政治情勢」だが、この人が登場すると「永田町権力闘争」という意味になる。ようやく東京に春一番が吹いた日の昼下がり、9月の自民党総裁選をにらんで、どこまで踏み込むかが注目点だった。

しかし山崎氏は慎重居士で、1時間のスピーチは在日米軍再編、サマールワの自衛隊撤収など自民党安保調査会長としての課題に終始。総裁選に的を絞った質問も「自分が立候補する、しないも含め、会長を務める近未来政治研究会が7月にポスト小泉の政策を発表してから考える」とかわした。ただ、持ち前のサービスピスは健在で、ポスト小泉の条件は？の問いに「経験なき知識は、知

識なき経験に劣る」と応じ、急激な世代交代に警戒感を抱く党内ベテラン議員の本音を代弁した。

現段階では、様子見に徹するのも無理はない。小泉政権の最後の大事な目ざされている在日米軍再編が、関係する地元自治体の反発で壁につきあたっていているからだ。日米両政府は、沖縄の普天間基地を名護市のキャンプ・シュワブ沿岸地域に移設する計画で合意しているが、沖縄県や名護市は受け入れを拒んでいる。山崎氏は「最終的には小泉総理と稲嶺知事とのトップ会談で決着するもの」と思う。ただ、二人とも安易な妥協はしないので、十分な事前調整が必要だ」と述べた。「それができるのは自分しかない」というアピールにはほかならないが、状況は依然として厳しい。

日米同盟最優先の小泉路線を支えてきたのは山崎氏である。その日米同盟でつまずけば影響力は低下するが、うまくいけば力は増す。在日米軍問題の行方が、ポスト小泉政局で主導権を握ることができるかどうかと無関係ではなさそうだ。

NHK解説委員

島田 敏男

辻元 清美 社民党政審会長代理

3・6(月)研究会「憲法」⑥
 司会 川戸恵子委員 出席 77人

▼「冷徹なハト」の論理

「こまめの歯ざしり」と言わば言え。わたしや、わたしの道を行く。テンポのいい、大阪弁のスピーチを聞いた印象だ。社民党が政権の一翼から滑り落ちて、はや幾歳月。国会では吹けば飛ぶよな少数勢力、質問時間も満足に確保できない。2月の党大会で「自衛隊の現状は明らかに違憲状態」と宣言すれば「先祖返りか」と冷笑されるなど、いいことは何もない。きつと意気消沈だろうなと思いきや、どうしてどうして。



「あちこち集会に行くと、どこも立ち見が出る。北海道の食堂では「今は昭和10年代ですね」と声を掛けられ、東京・神楽坂の喫茶店では「ここを憲法9条を守る拠点に使用して」と激励された」と意気軒高だ。

「護憲を唱えるだけでは平和を構築できない」とい。「9条が大事」と言うだけでは紛争は減らないし、憲法を守っているだけでも人は死ぬ。私は自分自身を「冷徹なハト」と思っている。護憲党の座にあぐらをかくのでなく、国民の胸に響く「論理と行動」が必要ということだろう。で、現状をどう認識し、具体的に何をしようというのか。「敗戦コンプレックスのノスタルジー派と、新自由主義思考の若手がひつついているのが改憲派。アジアとの関係が冷えきり、危険なナショナリズムが首をもたげている今、改憲の動きは国益にならない」「日本は憲法9条を武器に、紛争の仲裁・調停外交、核などの軍縮、人道支援を進めるべきだ。そのリスクを覚悟して引き受けるのが『冷徹なハト』。集団的自衛権を容認して米国の世界戦略にコミットするのと、どちらのリスクが低いのか」

現在、憲法をめぐる政治状況は「なぎ」状態だが、いずれ改憲派が攻勢に出る。それにどう反撃していくのか。ハトの真価が問われる。共同通信編集委員兼論説委員 山崎 剛

ネリー・クルース EU競争政策担当委員

3・7(火)記者会見 司会 中井真則委員
 通訳 沼田美都子 宇尾真理子 出席 37人

▼市場の透明性確立に奔走

「欧州単一市場をつくっても、談合などで価格が作作的につり上げられたのでは無意味だ」。04年11月に就任以来、市場の透明性確立に奔走してきた。競争政策に関するハイレベル協議で来



日。今年1月、日本で改正独禁法が施行され、談合やカルテル防止のため違反行為を公取委に自主報告した企業には課徴金を減免する制度などが新たに導入されたことについて「消費者にとっても産業界にとっても重要な動きだ」と評価した。ソフトウェア分野の競争政策に力を入れていくことでも知られる。欧州委は独禁法違反で04年3月、マイクロソフトに対してソフトウェア市場の競争確保に関する是正命令を出した。この日の会見でも、改善が見られなければ同社に1日当たり最高約200万ユーロの罰金を課すことを検討していることを明らかにし、強い姿勢を示した。

米経済誌「フォーブス」が発表した昨年の「世界で最も影響力のある女性100人」番付で44位。「一国家の王者」という考え方は時代遅れで、欧州王者、世界王者を育てるべきだ」と語る。欧州人である。ところが、出身国オランダは昨年6月、同国初の国民投票で欧州連合(EU)憲法の批准を否決。一気に25カ国加盟となったEUは、新規加盟国の安い労働力の受け入れなどをめぐって対立が表面化、統合にブレーキがかかっている。しかし、「憲法の中身が国民にきちんと伝わらなかったことが否決の理由。オランダ国民の80%はEUに反対しているわけではない」との見方を示した。EU首脳会議は00年3月、10年までに米国をしのぐ競争力のある経済圏創設を目指す「リスボン戦略」を採択。「競争政策は同戦略の中核」と位置づけている。毎日新聞外信部 藤生 竹志

麻生 太郎 外相

3・8(水) 記者会見 司会 和田圭委員
出席 154人

▼クラブで3回目の会見

麻生外相の会見は、昨年12月、今年1月に続いて3回目となった。閣僚がこれほど頻りに、日本記者クラブで会見を行うのはこれまであまり例がない。

麻生外相はこの点について、「国会の冒頭の外交演説で行った公約を果たすためだ」と語った。



公約とは、「日本外交の目指すところをきちんと論じ、国内外に伝えていく」とした部分だそう、今後も「毎月1回程度で努力する」とも述べた。大いに歓迎したい。今回は、「日本にとって経済外交とは何か」について語り、その後、幅広い質疑に応じた。

経済外交に関しては、「経済外交とは、世界の中で日本国民、企業が安心して働き、利益を伸ばすことができる環境づくり」と定義。

「外務省には外務省ならではの仕事、外務省にしかできない仕事がある」と強調したうえで、日本政府が力を入れているEPA（経済連携協定）の意義を語った。

外相は、「EPAはFTA（自由貿易協定）より広くて深い」とし、「EPAはいわば、民主主義、自由経済主義、法治主義などの価値観を同じくする仲間を広げていこうとするものだ」と強調した。同じ価値観を持つ「仲間づくり」という表現に戦略的意味合いを感じた。

質疑では、自身の靖国神社参拝について、「日本が独立した昭和27年4月28日、祖父（吉田茂）に連れられ靖国を参拝し、『兵隊さんに感謝しろ』といわれて以来、ほぼ毎年参拝してきた」と述べた。

一方で、いわゆるA級戦犯の合祀問題については、「靖国神社は戦没者を祭るところ、ということを考えれば、解決の方法はある」と述べ、含みのある答えを残した。

産経新聞論説副委員長

矢島 誠司

朴 槿 恵 ハンナラ党代表

3・9(木) 昼食会 司会 若宮啓文委員(訪韓団
団長) 影山日出夫委員 通訳 李ヘリ 出席 194人

▼気品と芯の強さ

来年暮れの韓国大統領選に向けて、韓国政治が動き始めている。最大野党であるハンナラ党の代表として、女性ながら、次期大統領の最有力候補の一人と目されている。

「21世紀における韓日関係の新しいビジョン」と題したスピーチは、自ら推敲を重ねて準備したという。

「いまだに過去に縛られ、広大な未来に進めずにいる」日韓関係の将来のため、「20世紀の不幸な過去を乗り越え、21世紀の新しいビジョンが必要だ」と切り出した。



首相の靖国参拝問題には、「隣国の国民感情に配慮し、他の成熟した方法を模索する必要があるのではないだろうか」と、やはり、反対の姿勢を明確にした。

気品のある笑顔、穏やかな語り口が聞き手を和やかな空気に誘う。それでいて、芯の強さを感じさせる。父の朴正熙大統領、そして母も非業の死を遂げた。

自ら「波乱万丈の人生を歩んできた」と言う生い立ちのゆえだろうか。

儒教社会の韓国で、女性であることが、大統領への道に立ちほだかる壁とはならないのだろうか。そんな懸念にきっぱりと答えた。

「男性か女性かではなく、どれだけ問題を解決していく能力を持っているかを見て、リーダーを選択すると思う」

並々ならぬ意欲がうかがえた。

読売新聞論説副委員長

上村 武志

大沼 保昭 東京大学大学院教授

3・10(金)研究会「憲法」⑦
 司会 山田孝男委員 出席 45人

▼極論を排して中庸を探る



大沼先生といえ
 ば「護憲
 的改憲
 論」であ
 る。改憲
 は不可避
 だが、日

まして安全保障条項の改定となれば
 なおさらである。

9条改憲で「戦力不保持」という
 欺まんを解消すれば法律的にすつき
 りはする。だが、「交戦権否定」の
 制約を取り払えば、同盟国アメリカ
 の軍事行動に対する協力要請を拒む
 理由がなくなる。世界の警察官を自
 任する超軍事大国に鼻面を引き回さ
 れること必定だ。

本国憲法の基本原理である平和主義
 を逸脱せず、「20世紀後半、実によ
 く働いた現憲法を敬意をもって受け
 止め」、抑制的な改革にとどめるべ
 きだという持論を拝聴した。

「私は改憲論だが、現政権と直近
 の政権の下で改憲すべきだとは思わ
 ない」というご発言があったので、
 理由をうかがうと「憲法問題や歴史
 認識について説明責任を果たす気か
 なく、内外に道義性を示し得ないか
 ら」という点を強調された。

憲法というものは、その成立はも
 ちろん、運用も、改正も、その時々
 の国際情勢から自由ではありえな
 い。グローバリゼーションを持ち出
 すまでもなく、近代以降、常にそう
 だと憲法史の教科書に書いてある。

長谷部 恭男 東京大学教授

3・13(月)研究会「憲法」⑧
 司会 橋本五郎委員 出席 55人

▼立憲主義と平和主義

若き憲法学会のリーダーは、最近
 活発化している改憲の動きにどう立
 ち向かうのか。耳を澄ませる聴衆に、
 長谷部教授は「そもそも近代憲法の
 拠って立つ『立憲主義』とは何か」
 という根源論から自説を展開した。

まず教授は、先輩教授の高橋和之
 氏が唱える「立憲主義とは、国の統
 治が憲法に従って行われること」と
 いう学会の通説の否定から、スピー
 チを始めた。高橋氏の言う立憲主義
 は中世ヨーロッパにも存在したが、
 長谷部教授によると、近代的な立憲
 主義の特徴は、「宗教とか根本的な
 価値観を公の場に持ち込まないこ
 と」にあり、キリスト教が万能だっ
 た中世の立憲主義とは質的な変容を
 遂げているとされる。つまり、世の



中には多
 様な価値
 を奉じて
 いる人々
 がいるこ
 とを前提
 にした上
 で、思想

信条の自由やプライバシー権、政教
 分離原則などを維持することが近代
 立憲主義だという。

教授は、近代立憲主義の内容の一
 つとして日本国憲法に盛り込まれた
 平和主義(9条)についても、独自
 の解釈を示した。法律には、たとえ
 ば「ある通りが駐車禁止になってい
 るかなってないか」など回答が一
 義的に決まる準則(ルール)と、「表
 現の自由」のように一義的に決まら
 ない原理(プリンシプル)の2種類
 があり、9条は原理だと説く。その
 上で、9条について「一兵たりと
 も許されない」との準則ではなく、
 常備軍を置くとしても、必要最低限
 にしなくてはならないとの原理だ」
 との解釈を導き出した。

ただ、国軍の在り方という国政の
 重要課題は、やはり準則として明確
 化すべきだと感じた聴衆が多かった
 ようだ。それが明確でないと感じる
 人が多いからこそ自衛隊違憲論が根
 強く存在するのが現実だろう。
 今後、さらなる議論の深まりに期
 待したい。

読売新聞政治部

舟橋 格致

北側 一雄 国土交通相

▼安全な住宅のための基本法を

スピーチの主テーマは耐震強度偽装問題。再発防止策を分野別、時系列的に整理した分かりやすい内容だった。

フロアから、賃貸マンション住民への公的支援は地震など自然災害の被害者対策とのバランスに欠ける、という趣旨の質問があった。国交相は語気を強めて反論した。税金の使い方は公平でなければならぬが、困った人に救いの手を差し伸べるのが政治なのだから、国交相側に分がある。



国交省が、欠陥住宅の責任を売り主等に履行させるため保険加入を義務化する宅建法改正を研究しているという。金融庁など関係省庁との調整が必要だが、購入者サイド

3・13(月) 記者会見 司会 菅沼啓吾委員
出席 58人

に立ったこの法整備のため、国交相のリーダーシップ発揮を期待したい。

建築物の文化性に関しても言及、欧米では中古建物の価格が下がらないことを紹介した。日本でも長持ちする建物を造り、建物の文化・景観という要素が評価されるべきだと考え方だ。「石の文化」とも呼ばれる欧州の文化と日本の建築文化には違いがあるが、傾聴すべき意見だ。

日本の現状は格差拡大の傾向にある。政治はこれを是認、助長するのではなく、国民全体の富の蓄積を底上げする方向にかじを切らないと、建築文化の向上も夢物語に終わる。

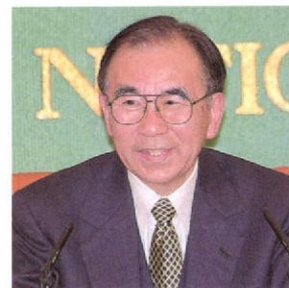
対症療法は必要だが、それだけにとどまることなく、国民生活の基本中の基本である住宅の確保と安全について包括的な基本法を創設し、道路行政などから独立した住宅省をつくる時代が到来していることを、今回の偽装事件は教えている。長期的な展望の下での政策が必要だ。大臣在任の9月までに、その基礎工事を始めてほしい。

共同通信論説委員

松野 修

西 修 駒澤大学教授

▼“改憲”を国際比較の視点で



どこにでもいる観念的な改憲論の学者とはひと味違う。西教授の武器

は徹底的な「比較」である。

研究会で配られた資料に驚いた。米国は18回の改正、フランスも18回、イタリアは14回、「世界最大の民主主義国」のインドに至っては91回、日本が「戦後」のお手本としてきたドイツも51回の改正を経験している。スイスに至っては1874年の施行以来、毎年のように140回の改正をしたという。

また、憲法の条文に「平和主義」の条項があるかないかを世界193カ国の憲法から調べ上げ、一項目でも平和条項の規定がある憲法を持つ国は150カ国に達すると突き止めた。

研究会では参加者から「小さな国の憲法と経済大国の日本の憲法を比

3・15(水) 研究会「憲法」⑨
司会 影山日出夫委員 出席 54人

較しても意味があるのか」という質問が上がった。しかし、比較研究とは徹底するから意味がある。「日本の憲法は世界で古い方から14番目。日本以外はかなり頻繁に改憲している。60年近く無改正は日本だけなんです」。西教授のこうした主張が説得力を伴って響くのも、その背後に膨大な作業があるからだ。

西教授の本音は憲法にまつわるさまざまな「神話」を破壊したいのだと思う。憲法は変えない、平和主義は日本が世界に誇るべき思想だ、国防の義務や兵役は課してはいけない……。

戦後の日本で通用した言説が実のところ、世界の常識とはかい離していることをデータから説き、「改憲をタブー視すると思考停止状態に陥る」と警鐘を鳴らした。

憲法改正に対し、政界は自公民の主要3党は基本的には前向きだ。どのメディアも数年内には改憲論議に本格的に巻き込まれる。我々が世界の状況を知るうえで西教授の研究は間違いなく重みを増すだろう。

朝日新聞論説委員室兼政治部

野嶋 剛

渡部 恒三 民主党国対委員長

3・24(金)昼食会 司会 金平茂紀
理事 橋本五郎委員 出席 136人

▼「恒三節」が残したもの

失礼ながら渡部恒三氏が日本記者クラブの記者会見に登壇するとは夢にも思わなかった。「恒三節」を聞いたのは十数年ぶりだろうか。故竹下登元首相は「恒三は演説で銭が取れる数少ない政治家の一人」と言っていたことを思い出す。のどかな会津弁と独特の間合いが聴き手の心を引きつけ、和ませる。会見場がしばしば笑いに包まれたことがそれを証明していた。「恒三節は健在」の印象だった。



その上で渡部氏はメール問題の渦中にあった永田寿康氏について「侍なら名を惜しめ」と議員辞職を強く促した。一連の発言をつなぎ合わせる、渡部氏の頭の中には「自らの手による民主党の再建」と

いう構想があったことを窺わせた。しかし永田氏の自発的辞職は不発に終わり、前原代表の辞任という劇的展開で民主党は再建を目指すことになった。渡部氏にとって目算違いだっただけかもしれない。

ただ73歳の渡部氏の国対委員長就任は政界に「若さより経験」という言葉をよみがえらせた。51歳の安倍晋三官房長官を軸に進み始めた自民党のポスト小泉レースにも波紋を投げかけている。渡部氏の明るいキャラクターも相まって「恒三節」が与えた影響は小さくない。

共同通信論説副委員長

後藤 謙次

畔蒜 泰助 東京財団リサーチフエロ
田中浩一郎 日本エネルギー経済研究所
中東研究センター長

3・27(月)研究会 中東ベールシークン⑧
司会 脇祐三委員 出席 70人

▼イラン核問題の深層

イラン核開発問題をめぐる同国や米国の真意は政治家たちの表面的な発言だけでは理解できない。背景にある中ロなど関係国の思惑や周辺中東情勢、同様に核問題が焦点である北朝鮮の動きなどから深層を探る必要がある。二人の話は複雑さを増す国際政治を報道することの難しさをあらためて印象づける内容だった。

田中氏(右)は「イスラエル抹消



発言をはじめとするアハマディネジャド大統領の過激発言はイランの核政策と直接結びついてはいない」と言う。核

進められている」との分析だ。

畔蒜氏(左)はイラン核問題でロシアが仲介役を果たしている背景として、米ロ主導による核燃料の国際管理構想があると言う。「9・11事件で国際テロと大量破壊兵器拡散という、冷戦時代と異なる次元の脅威が浮上し、米ロが戦略的な協力関係を進めている」と解説する。将来のエネルギー問題解決の観点から「米政府もイランの原発利用を遅ればせながら認める立場だ」。

イランは最近、イラク問題で米国の協議を公に提案した。核問題での時間稼ぎとの見方もあるが「隣国イラクにどんな政権ができるかはイランの安全保障に直結する問題で、イランの本当の狙いは実はイラク問題ではないか」という畔蒜氏の指摘は新鮮だ。田中氏は「イランはアフガン、イラク戦争で秘密裏に対米協力したが、これを公にしなかったことを悔やんでいる」と解説する。イラン問題では米国発の報道も時に政治色を帯びる。日本にとっても切実な問題だけに表面的な言葉の応酬に惑わされないことが重要だ。

日本経済新聞国際部 岐部 秀光

ミエーゴムビン・エンフボルド モンゴル首相

3・28(火) 記者会見 司会 熊村剛幸
理事 通訳 大東亮 出席 67人

▼「草原の民」のパワー

朝青龍が16度目の優勝を飾り、三賞をモンゴル力士が独占。春場所はモンゴルの風に席卷された。

「友好的空気は強まっている。力士を何人でも送り出す用意がある」との言葉は自信に満ちていた。

堂々たる体躯と力のこもった眼に、チンギスハンの幕営にでもいそう——などと連想したのは筆者だけか。史上最大の帝国が誕生して、今年800年。騎馬軍団の再現などの催しやビザ免除を用意して、日本人の来訪を待っていると訴えた。

米国CIAの報告によると、同国04年のGDP実質成長率は10・6%とすばらしい。しかし同時に、数千年の歴史をもつ遊牧の国は、経験の



ない難問を突きつけられてもいる。

遊牧に破たんした牧民の流入による都市肥大、貧富の差の拡大などだ。

筆者も、4年おいた2度の訪問で、経済の活性化とともに貧困層の拡大を実感させられた。「モンゴル国にあつた開発計画を進めているが、進んでいない」と、首相が日本の援助を期待するのはうなずける。

モンゴルをこよなく愛した司馬遼太郎は生前、「くるたびにこの国は生きのびられるか、と自問自答する」(「草原の記」と案じた。モンゴルの人に親近感を持ち、草原の暮らしにある種の豊かさを感じる日本人は少なくないだろう。

急速な商品経済の浸透は、草原の暮らしの本質を変えるパワーもはらんでおり、温暖化現象は砂漠化を進める。大転換期のかじ取りは容易ではない。国民の7割が「日本に好感」という国はほかにないだろう。モンゴル旋風を機に、草原の民の将来にも思いをはせてはどうだろうか。

読売新聞編集局長(文化関連事業担当)

西島 大美

ステファン・メルル ポーランド外相

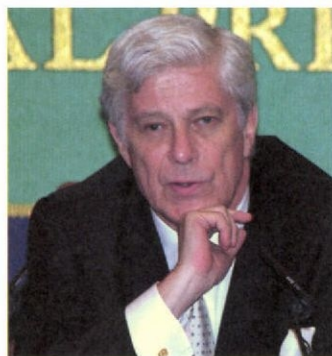
3・31(金) 記者会見 司会 中井康朗委員
通訳 小松達也 久山宏一 出席 48人

▼内政・外政不可分の事情

訪日の直前に、隣国のベラルーシとウクライナで選挙があつた。

大国のはざまにあつて国家が消滅した歴史さえあるポーランドだけに、隣国情勢には神経をとがらせている。

まず、一昨年のオレンジ革命で揺れたウクライナの総選挙には比較的落ち着いた受け止めを示した。曲折はあつても、いずれは民主化が進むという見立てである。



厳しかったのはベラルーシの大統領選挙だ。「欧州最後の独裁者」と呼ばれ、強権的な統治が国際的にも批判されている現職のルカシエンコ氏が勝利した。

「われわれは野党候補を支持した」「野党の活動家をポーランドに招き、彼らはそこからさまざまな行動を繰り広げた」

内政干渉という言葉は存在しないかのように遠慮のない言葉がぼんぼん飛び出す。人権などの普遍的な価値を守る立場からということなのだ

ろうが、両国関係はそうとう緊張しているに違いない。

そういえば、ウクライナのオレンジ革命の時も、ポーランドは民主派と言われたユーシエンコ現大統領に露骨に肩入れしていたようだった。

世界大戦などの結果としてこの3カ国の国境はがらりと動き、人口は複雑に入りこんでいる。その上に、冷戦時代のソ連支配というくびきがのしかかっていた。

隣国との付き合いを内政、外政とくつきり切り分けるには、まだまだ生々しすぎる歴史と現実がある。

外相になった昨年まで駐ロシア大使だった。ロシアがウクライナやポーランドをバイパスして天然ガスを欧州市場に供給するパイプライン構想を進めているのを批判するなど、ロシア不信も相当なものだった。

朝日新聞論説副主幹

宮田 謙一

リレーエッセー

ミュンヘン五輪①
(1972. 9)

1972年ミュンヘン夏季五輪は、それまでの運営は完璧だった。9月5日、私の担当する男子バレーボール・日本対西ドイツは午前9時試合開始。7時過ぎに練習会場に出かけた。いつまで待っても日本チームが現れない。4戦無敗の日本は準決勝進出を確実にしていた。「休むも練習か」と思い始めた頃、赤いトレーナー姿の日本チームが到着した。松平康隆監督は私の顔を見るなり「西田君、事件だ！イストラエルの宿舎で殺されたらしい」。簡潔な松平さんの話を聞いて、私は棟続きのNHKのオフィスに走っ



パーティー・スケッチ

▼背筋真つすぐ67歳 毎日の玉置和宏さんが3月末で論説顧問を終了し退社、特別顧問になるのを機に激励パーティーが開かれた(写真)。今後は経済記者一筋の蓄積を生かし、より自由な立場で評論活動を。速水優、牛尾治朗、松田昌士、小林陽太郎、新町敏行さんから多くの経済人に加え、政界から加藤紘一さん、文壇では丸谷才一さんらが出席した。そ

れに箱島前新聞協会会長、杉田日経社長など仲間や同僚etc。(和服姿も)で130人。福島弁の司会者に促され、これまで玉置コラムで叱咤激励された大物たちが次々1分間限定スピーチに立った。(3.28 クラブ宴会場)

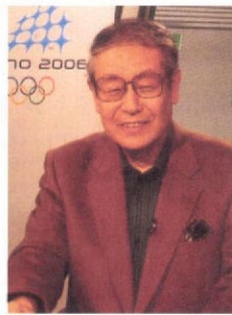
彰式とパーティーが行われた。受賞したのはフィギュアの荒川静香さん(残念ながら欠席)と4月から高1の浅田真央さん、サッカー全国優勝の滋賀県立野洲高校サッカー部、清宮克幸前早大ラグビー部監督(現サントリー監督)。紙面掲載写真を拡大したパネルの前で、真央さんから受賞者を囲みお祝いの輪が広がった。(3.29 クラブ宴会場)

た。プレス村のデスクに連絡する一方で、まだ鍵のかかったドアに事件のあらましを張り紙にして試合場に戻った。これがミュンヘン事件の内部第一報だった。バレーボールは時間を遅らせて

下に揺れる。やがて警察の狙撃隊員の姿を映さなくなった。テレビ画面で室内のゲリラに手の内を読まれてしまう。この映像は日本はもちろん、世界中に中継されていた。これこそがゲリラの狙いであ

テロ勃発 悲劇の特番放送

▼西田 善夫



始まり、日本は全勝で準決勝に進んだ。事の重大さを五輪の現場はまだつかめていなかった。やがて午後からの競技中止指令が出た。西ドイツZDF放送局は人質を盾にゲリラが立てこもる宿舎を生中継した。望遠レンズの画面が上

った。夜になつてもミュンヘン五輪は止まっていた。遅い競技もある五輪では、スタッフが宿舎で顔をそろえるのはまれで、情報交換のいい機会だった。10時を過ぎて爆音が響いた。ベランダに出てみると、

赤いライトを幾つも付けた大型ヘリコプターが夜空に飛び上がった。誰かが言った「ミュンヘン空港とは逆だな……」。宿舎に戻った取材班から「未確認だが、軍用空港で人質全員を救出したそうだ」と聞き「さすがにドイツ、お見事！」と乾杯までして寝た。

翌朝、「ニシチャン、特番だ。すぐ放送センターに行つてくれ！」。温和な福島幸雄先輩(故人)にしては、きつい語調で私は起こされた。そして人質9人、ゲリラ4人、軍用空港での死者13人の「特番ミュンヘン」を日本に伝えた。

(元NHK解説委員 現在・会報委員)
*今号からミュンヘン五輪取材の思い出を4会員に寄せていただきます。

日英“草の根”交流計画を追う

—若手英語教師の「日本発見」

有賀 忍



これは華やかな取材合戦の裏話ではない。長い伝統を持つ日英交流のはるか裾野で、草の根交流の役割を担った英国の若者たちをめぐる物語である。

私は1973年から79年まで6年間英国に滞在したが、その間常に感じていたことは、日本人が思っているほどに一般の英国人は日本のことを知らない、あるいは関心がないということだ。

78年に訪英した当時の園田外相とオーエン英外相との間で「日本片思い談義」というのがあった。日本が明治以来、英国の制度を取り入れ、その文化に並々ならぬ敬意を示しているのに、そのわりに英国の対日関心は冷淡ではないか、という議論だ。確かに一般的風潮はそうではあったが、そんな中で、ぞっこん日本に惚

れ込んで交流活動に打ち込んでいる親日家も決して少なくなかった。

その一人、ニコラス・ウォルファーズ氏は、日英両国政府を動かすほど実行力のある親日家だった。当時、サッチャー保守党の重鎮、ウイリアム・ホワイトロ（副党首(のち内相)の若手政策ブレーンとして活躍するかたわら、日英交流のボランティア活動に従事していた。彼とは共通の友人を介して知り合い、大いに意気投合して親交を重ねていたが、その彼から77年のある日、「新卒の若者たちを英語教師として毎年、日本に派遣する計画を進めている。協力してほしい」と誘われた。

今から30年ほど前、学校教育でナマの英語に接する機会是一部に限ら

れていた。そうした日本社会にクインズ・イングリッシュの本場から、しかも優秀な若手教師を毎年定期的に送り出すという構想は、日本にとって願ってもない朗報だ。日本人特派員たるもの否応あるはずはない。

計画はニコラス主導のもとに着々と進められ、78年、日本政府がスポンサーとなった英人教師の日本派遣事業がスタートした。人々は推進者の名に因んでこれを「ウォルファーズ・スキーム（計画）」と呼んだ。同年9月、英外務省と日本大使館で、オックスフォード、ケンブリッジをはじめ全国各地の大学から選び抜かれた派遣教師第1陣22人の歓送会が開かれた。

私も出席しその壮途を祝したが、その中にアントニー・ニューエル氏がいた。誠実な人柄で日本に対する

思い入れもかなり強かった。私は彼と日本での再会を約し、同時にニコラスとの約束を果たすべく、この計画を引き続き日本でフォローアップするための協力を彼に要請した。

翌79年私は帰国、日本記者クラブで埼玉大学講師となっていたアントニーと再会した。後続の英人教師陣も次々に全国の高校、大学、民間企業へと散って行ったが、私は彼との交流を通じ、この計画がネイティブによる英語教育という本来の使命以上の波及効果を及ぼしていることを知った。

彼らは皆が皆、必ずしも日本に関心があつて応募してきたわけではない。経済的理由もあつたろうが、ともあれ異文化との相克の中で彼らは徐々に日本への理解と愛着を深め、任期を延長して滞在する人、いったん帰国して自費で再来日する人、そのまま居残って日本企業に就職する人など多数の親日、知日派集団を生み出す結果となった。同時に、彼らを送り出した親族、友人たちの関心も当然日本に向けられ、対日理解の輪がさらに広がった。一方、彼らと接する日本人にとつても、国際社会に視野を広げる絶好の機会となった

意義は極めて大きい。

この動きに拍車をかけたのは、彼らが親睦団体「按針会」を結成したことだ。事務局長にはアントニーが就任した。会の名称は日本に初めて上陸した英国人ウイリアム・アダムス（日本名三浦按針）に因んだもの。現役教師や帰国メンバーが連絡を取り合い、日英姉妹校の縁結びなど日英交流のボランティア活動を開始した。日英両国に散った「一粒の麦」が見事に実を結び始めたのだ。

私はここでウォルフアーズ・スキームの成果を総括するため、英人教師による座談会を2度にわたり企画した。主宰は当時、時事通信が発行していた「週刊時事」。批判精神旺盛な彼らはこの席で日頃の思いの丈を存分に吐露し、話し合いは大変な盛り上がりを見せた。

私たち主催者側がここで気が付いたことは、彼らの目に映った日本が我々に自らの国を再発見する貴重なヒントを与えてくれているということだった。私たちはこの宝の山をもっときちんとした形で記録し残すべきではないかと考えた。

そこで彼らの意見や体験を持ち回りで執筆してもらい、同誌の連載と

する次なる企画を立てた。原稿の手配はアントニーが、翻訳は私が担当した。執筆陣には15人が参加、こうして「日本発見&再発見」の連載がスタートした。

内容は手前みそながら彼我のカルチャーギャップのいかに大きいかを思い知る、面白い連載となった。

日本の受験競争を「どこか狂っている」とやり玉にあげたある筆者は、自国の大学事情を紹介。入試ではペーパーテストより面接を重視し、受験生が物事を深く思考する能力を持っているか、知的好奇心が旺盛かなど、彼らの可能性を見極め、大学教育もその「深く思考する」ことに磨きをかける。知識一辺倒の日本の場合とここが著しく異なる。結果論として日本にノーベル賞受賞者が少なく英国に多いのは、こうした基本的な教育姿勢に原因があるのではと指摘した。

別の筆者は「日本語は途方に暮れるほど豊かだ」と絶賛する。早い話、基本動詞のisや自分を示すI、女王陛下も召し使ひも等しく使う言葉だが、これに相当する日本語はまさに「言葉の宝庫」。とくに四季の移り変わりに伴う自然現象を繊細な感覚でとらえた豊富な表現は英語で伝えることは至難の業と、誇り高きジョン

ブルもお手上げの態だ。

当の日本人、自国語の豊かさにそれほどの自覚があるだろうか。日本を「世界に比類のない贈答社会」と評した筆者もいる。一応その効用は認めながら過度の商業主義に毒されているとし、特にお中元とお歳暮は家計をあずかる主婦にとって「二大季節的公害」と断じた。

巷に氾濫するカタカナ英語や横文字は彼らの格好の餌食だ。スポーツ店の看板にAthletes Foot（競技者の足）とあった。なるほど感じは出ているが、店主は知ってか知らずか、英語では実はこれ「水虫」のことだ。

変わったところでは、オックスフォード大の初の女性コックスをつとめたスー・ブラウンさんがオックス・ブリッジ対抗試合「ザ・ボートレース」と早慶レガッタ、テムズ川と隅田川の比較検証を試みているのが興味を引いた。

連載は一年半に及び反響は上々だった。K出版社から英語の副読本にしたいとの申し出があり、同社から「What We Discovered in Japan」(日本で発見したもの)との表題で出版されるといっておまけまでついた。

連載された「日本発見&再発見」

は後に、時事出版局から単行本として出版された。この種の実体験的異文化比較論は当時珍しかったせいも、中央紙、地方紙、週刊誌の多くが書評欄で取り上げてくれ、その内容はおおむね好意的であった。

当時の「朝日ジャーナル」誌は「自分の側にしっかりと判断の核がある日本体験である」と評したが、これをまさしく「大学で深く思考することを学んだ」成果ではないかと思つた。「黄昏のロンドンから」を書いたエッセイストの木村治美氏は「筆者たちは日本を語りながら常に母国と比較の上で判断している。そして自分の国を見る眼が誠に客観的」とした上で「自国を語る目と同様、彼らの日本観察はどの分野でも驚くほど正鵠を射ている」と評価した。

こうした様々な書評も大変ありがたかったが、それ以上に私を感激させたのは中部地方のある図書館からかかってきた一本の電話だ。用件は「目の不自由な人たちに読んで聞かせたい。ついてはテープに吹き込む許可を頂きたい」というものだった。

あるがしのお会員 1957年時
事通信入社 政治部次長 ロンドン
支局長 海外部長 国際本部長 監
査役 顧問 退任後 東京地裁民事
調停委員 現在 (財)新聞通信調査
会(財)同盟育成会・同盟クラブ理事

量的緩和

日銀の「3月解除」を確信

▼倉貫 浩一

(読売新聞社)

日本銀行が約5年ぶりに「金融的緩和政策」の解除に踏み切った3月9日、記者会見した福井俊彦総裁は「約束した条件は満たされた」と判断した。判断した以上、ただちに実施するのは金融政策の常道だ。何かの理由で次回（の政策決定会合）まで持ち越せば、非常に無責任だ」と言い切った。この言葉に、今回の取材のすべてが凝縮されていた。

量的緩和政策の解除は、金融担当記者にとって極めて大きな取材テーマだった。長い間、デフレに悩まされてきた日本経済が、デフレから脱却のメドが立ったということ象徴する出来事であるからだ。

昨年秋から、取材に力を入れる中で、最初に取材側が再確認すべきことがいくつかあった。

一つは、新日銀法の下での金融政策の決定メカニズムを理解することだ。私は1990年代前半にも2年

間金融を担当した経験があるが、新日銀法によって、金融政策の決定メカニズムは大きく様変わりした。当時の政策委員会は「スリーピング・ボード」とも揶揄され、事務方が極秘裏に公定歩合の変更を決め、市場にサプライズを与えることが当然のように思われていたが、今は政策委員9人の多数決で決まる。事前に、投票結果を確定するのは難しい。

もう一つは、福井総裁が就任後に導入した「量的緩和解除の3条件」の意味合いを理解することだ。消費者物価指数（CPI）の前年比上昇率が安定的にゼロ%以上などの条件は、金融政策の透明性を高めるために導入された。市場との対話を重視しようという流れである。かつてのようにサプライズを与えることは市場を混乱させかねず、かえって「有害」とされるようになっていた。

量的緩和解除の取材は、ハードルが極めて高かった。金融政策決定会

合の2営業日前から会合が終わるまでは、日銀幹部や審議委員が一切の取材に応じない「ブラック・アウト」など、新日銀法とともに作られたルールがあったからだ。総裁・副総裁、審議委員などの講演を丹念に読み込んで、その意図を探る作業などを中心に、取材を広げていった。

取材を進める中で、日銀執行部が2月9日の決定会合後、解除後の枠組みなどについて本格的な研究に入ったとの情報が入ってきた。市場では4月解除との見方が大勢だったが、3月解除の可能性が強まってきたことを裏付ける取材をさらに複数の関係者からしたうえで、読売新聞はまず、2月24日付朝刊1面で「量的緩和3月解除も視野」と記事化した。

その後、福井総裁らが国会などで量的緩和の解除に前向きな答弁を繰り返したこともあって、市場は3月解除を次第に織り込み始めた。同時に、複数の関係者から「1月のCPI上昇率が0.5%なら、3月9日の金融政策決定会合で解除を提案する」との裏付けを得たため、3月3日付朝刊1面で「量的緩和解除、9日提案で最終調整」と報じた。

公定歩合の上げ下げが主たる政策手段だったころは、日銀執行部と政

府の調整で金融政策が決まるのが実態だった。だが、新しい日銀法では政策委員9人の多数決で決まる。3月9日付朝刊1面では「量的緩和解除へ」と報じたが、記事中では「政策委員の大半の賛成で解除が決まるのは確実な情勢」との表現にとどめた。

3月9日の注目の決定会合を控え、政府高官らが3月解除は時期尚早とけん制する発言を繰り返した。だが実はこの段階で解除時期の問題は決着しており、焦点は解除後の金利安定の枠組みに移っていたというのが、私たちの判断だった。

2000年にゼロ金利を解除した「過ち」を除けば、今回は緩和一辺倒で来た金融政策の約15年ぶりの大転換となる。福井総裁はこれをできるだけ透明性の高い仕組みでやろうとしたのだと思う。そのために3条件を明示し、国会などで3月解除の可能性を強く示唆することで、市場に織り込んでもらい、政治の反発も封じ込めたのではないか。この半年余りの取材メモを読み返しながら、そんな思いを新たにしている。

くらぬき・こういち 1989年入社
経済部日銀 財務省担当などを経て
年5月から日銀キャップ

イラン核問題

報道の自由度164位の国で

▼島崎 浩
(日本放送協会)

「核技術の獲得はイラン国民の意思だ！」

アフマディネジャド大統領の呼びかけに、群衆が「アメリカに死を！」とシュプレヒコールを繰り返す。国営放送で流される大統領の演説、そして政権幹部の記者会見。核問題をめぐるイランの「強硬姿勢」が示されるたび、ニュースは世界中を駆けめぐる。

欧米を「敵」と呼び過ぎた発言を繰り返す大統領の就任直後から、イランはウラン濃縮の関連活動を再開。核問題が国際ニュースのトップ項目となり、ついこの間までネタ探しに苦労していた各社のテヘラン特派員の日常は様変わりした。

しかし、核問題の舞台が国連安保理に移ったとはいえ、世界的ニュースの最前線にいるとの実感があまりないのが正直なところだ。現場の核施設の取材や政権幹部へのアクセスが思うようにできないからだ。

NGO「国境なき記者団」が発表した2005年の「報道の自由度」

ランキングでは、167国中、イランは164位だという。最下位は北朝鮮だが、イランは主要メディアが拠点を置く国では最も言論統制の厳しい国と位置づけられた。

ここ数年国内の改革派メディアの弾圧が相次いだことが影響しているが、取材規制は外国メディアにとっても、悩みの種だ。

テヘランに特派員を置く外国メディアはおよそ40。国別では日本が5社と最も多いが、「記者会見」などでの重要な発言は、実は国営放送で初めて知る場合が多い。ほとんどの会見には外国メディアは出席できないからだ。

さらに地方取材を含め、ほぼすべての取材にメディアを統括するイスラム文化指導省の許可があるし、撮影した映像を国営放送から伝送する際も、ヘジャブをかぶっていない女

性など映像が「反イスラム的」「反体制的」とみなされれば、検閲の担当者はいつでも衛星回線をカットできる。

しかし、取材規制といっても自由が全くないかというところではない。

去年暮れ、シリア派が主導権を握ったイラクとの国境貿易の活況ぶりを取材することにし、イスラム文化指導省に国境の取材許可を申請したが、指導省は「問題ない」と言っていたのに一向に許可が下りない。治安機関が申請を却下したと漏れ伝わってきた。イランがイラクに武器を送り込んでみると米英が非難を強めており、当局の疑念もそれなりに理由はあった。

申請から2カ月後、やむなく我々は、国境近くの町の取材許可だけをとり、現地に向かった。イラクとのビジネスで大儲けしているイラン人業者などを取材、国境そのものの取材は半ばあきらめてホテルに帰ると、男が待っていた。治安機関の地元職員だった。1時間あまりの「尋問」で、両国の経済関係の強化という取材の目的を説明すると、「国境の撮影は問題ない」。あっけなく許可が出てしまった。

翌日、その男が取材に同行するこ

ととなり、国境に着くと両国の商人たちが行き交う様子とともにイラク側ゲートの上に、何とイギリス軍兵士が立っているのが目に入ってきた。10分間に限って許された撮影の間、男は熱心にメモをとっていたが、撮影を止めることもなく「お疲れ様」と言って帰って行ったのだ。現場で何とかなることもあるイラン流のいい加減さも思い知った。

とはいうものの、先行きの見通しは明るいとさえ言えない。核問題が国連安保理に持ち込まれた3月、イスラム文化指導相は地元メディアに対し「国益に反するような報道は容認しない」と警告した。外国を「敵」と「味方」に分けるイラン版ネオコン政権のもと、一部では外国メディアの規制も議論されている模様だ。しかし、強硬路線を突き進む政権の主張とともに、孤立や制裁への懸念を抱く人々も含めた国民の世論なども幅広く伝えていく義務が我々にはある。

核問題が長期化の様相を見せる中、慎重に、しかも「攻めの取材」をいかにして行っていくか、模索する日々が続くそう。

しまぎき・ひろし 1992年入局
国際部を経て 05年からテヘラン支局

◇平成初の分村合併◇

住民“オウム資料” 風化の懸念も

▶山口真理子

(山梨日日新聞社)

オウム真理教（アールフに改称）の進出で全国に知られた山梨県の上九一色村は3月1日、「平成の大合併」では初となる分村合併をし、約117年の歴史に幕を閉じて村名が消えた。教団施設があった富士ヶ嶺を含む南部3地区は富士河口湖町へ、北部2地区は甲府市に編入。教団との関いを強いられた住民は、村が二分する形でなくなった寂しさに加え、事件が風化することへの懸念など複雑な思いを抱えている。

1995年3月22日早朝、防毒マスクに迷彩服といった1500人を超す捜査員が次々と施設に入って以来、連日の報道が続いた上九一色村。



村役場は甲府市の出張所となった (3.1)

住民はそれ以前から、サティアンと呼ばれる異様な施設群に集まる信者との摩擦に悩まされ、逃げ出した信者を保護したり、対策委員会を結成して追放運動を続けた。教団の危険性を証明するため密かに施設に入り、後に死体を焼却していた場所であることが分かった地下室の写真を撮影したこともあった。

今はすべての施設が撤去されて跡地は公園となり、のどかな酪農地帯の風景が戻った。強制捜査以降に生まれた子どもたちは事件のことをほとんど知らないという。

ただ、住民運動の先頭に立った元村議の竹内精一さん（77）は「事件の全容はまだ解明されていない」と強調。「今後似たような事件が起き

ないとも限らず、住民が保管している資料を行政側で集めて管理し、事件を風化させないでほしい」と訴える。異臭騒ぎなどトラブルの際に日時や場所を記録した連絡帳、当時の渡辺勝美村長と麻原彰晃代表（松本智津夫被告）の「トップ会談」議事録など、「教団と向き合った事実を後世に残したい」とする住民有志は合併直前、富士ヶ嶺公民館に資料を持ち寄り、対応を話し合った。

一方で、分村合併を機に「マイナスイメージが払拭される」と期待する住民もいる。富士ヶ嶺地区には、いまだに「教団施設はどこですか」と興味本位で訪ね、跡地で記念写真を撮ったりする人がいるため、「住民の願いは平穏に暮らしたいだけ」とうんざりした声も聞かれる。

合併では、山を隔てて南部と北部の生活圏が違うことから、分村の道を選択した。編入先への村職員の振り分けや村財産の配分など、関係市町と直前まで協議が続いた。村職員



一口メモ 上九一色村

富士山麓の北西部に位置し、1889年（明治22）7月の町村制施行と同時に誕生した。人口は北部の穂、古閑が347人、南部の富士ヶ嶺、精進、本栖が1174人（2005年国勢調査速報）。3月1日に分村して北部は中道町と一緒に甲府市（人口計20万97人）に、南部は富士河口湖町（同2万5117人）に編入した。オウム真理教の施設があった富士ヶ嶺地区は開拓地で、酪農を営む人が多い。同地区が編入した富士河口湖町は、五湖のうち四湖（河口湖、西湖、本栖湖、精進湖）を抱え、富士ヶ嶺高原と合わせて「富士山と湖と高原のまち」をキャッチフレーズに観光に重点を置いた町づくりを目指す。

だったために調整が難航。結局は甲府市側が人口割合よりも多めに職員を受け入れる代わりに、基金も1億円程度上乘せして分配することで決着した。

住民生活の面では、村唯一の中学校は富士河口湖町となり、北部の子どもは移行期間を経て甲府市側の中学校に通う。安心安全を担う消防団をはじめ、体育協会や文化協会、各種女性団体などの組織も二分した。

最後の村長となった小林実氏（66）は「生活圏が違う事情もあるが、村民としてともに頑張ってきた人たちが別々の自治体や組織に分かれるのは寂しいことだ」とつぶやいていた。

やまぐち・まりこ 1999年入社 運動部 生活部を経て2005年に通信部 峡南支局 06年4月から峡東支局

○**囲碁の会** (3・18)
 2005年度最後の例会は参加者21人、ちよつと寂しい会でした。優秀賞は栗木欽一(4連勝)、石川基、中野正彦(3連勝)、田中信義、佐沢利和(3勝1敗)のみなさんでした。

05年度年間成績 勝率順位(敬称略 年間15局以上) ①荒井忠男(0.813) ②田中信義0.731 ③河野聡(0.636) ④渡部 行(0.625) ⑤佐沢利和(0.611) ⑥吉川真澄(0.594) ⑦宮沢昭一郎(0.590) ⑧三ツ野充蔵(0.579) ⑨松本昭男(0.563) ⑩清水秀昭(0.533)。

そこは「人と人」ではなく、「人と機械」が情報交換する世界。携帯電話やカーナビ、ネット家電などが主商品だが、日本はそこがえんばらないといけないと言う。

疑問を提示し、現在進行中のブロードバンドを背景にした、移動しながらも通信可能な技術開発の動きをユビキタス情報革命と位置づける。



フタババンクがボーダフォンを買収し、USENがライブドアと業務提携を結び、ニッポン放送はインターネットで1日12時間音楽番組を配信すると発表。動きは速い。(河野)

2週間の間に、ソウ会合からわずかに目する。そこにどんなビジネスが広がっているのか。

第7回「賛助会員の会」
 関口委員 兼 論説委員

ネット世界の最新動向を紹介しながら、通信と放送の融合が生み出す新たなビジネスの可能性を語ってもらった。

ブロードバンドは、パーソナルでローカルな分野で他のメディアより優位に立つが、放送もモバイルに対応しながら、ローカルでパーソナルな分野へ進出することが必要だ、とも。4月にスタートの携帯電話向け地上デジタル放送(ワンセグ)では、携帯電話との連携に注目する。そこにどんなビジネスが広がっているのか。



どん張を更新しました

クラブ会見でゲストの背景になるグリーンのどん帳を30年ぶりに更新しました。

NKCのロゴマークも入ったどん帳は1976年8月、間借りしていた帝国ホテルからプレ

スセンターへ移転したときに、会見場のシンボルとして製作されました。色やデザインは「カメラ写り」を考慮して、テレビ局の映像取材担当者らの意見が取り入れられました。

ところで、このNKマークのデザインはだれの手になるものかご存じでしょうか。神戸新聞の山下栄市さん、当時整理部長兼図案課長だった方の作品です。1971年、会員社の社員から募った76点の中から選ばれました。現在、クラブタイヤカフスタイピンセット、写真たてなどの記念品をはじめ、レストランのコースターにもこの図案が使用されています。

昨年10月、新聞大会に出かけた時に神戸新聞の方に「お元気でしょうか」と消息を尋ねてみました。残念ながら他界されていました。(長谷川)

HP <http://www.jnpc.or.jp/>

「韓国取材団」web-essay

韓国取材団(2月)参加者から6日間の取材旅行の感想などを寄せていただきました。「談話室・会員エッセー」コーナーにアクセスを。

「会見速記録」：3月の新規掲載

- 田中角栄通産相「70年代の通産政策」(1971.7.27)
- ロナルド・レーガン米大統領特使(カリフォルニア州知事)「ニクソン訪中は緊張緩和の試み アジア諸国との盟邦関係変わらず」(1971.10.23)
- 宗像紀夫中央大学法科大学院教授(元東京地検特捜部長)／後藤貞人日弁連取り調べの可視化実現委員会副委員長「裁判員制度で変わる捜査、裁判」(2005.8.18)
- 下川正晴韓国外国語大学言論情報学部客員教授(元毎日新聞論説委員)「韓国の言論政策の問題点—新聞法、言論仲裁法を中心に」(2005.12.2)
- 原彬久東京国際大学教授「吉田茂—尊皇の政治家—」(2005.12.5)
- 麻生太郎外相「わたくしのアジア戦略 日本はアジアの実践的先駆者、Thought Leaderたるべし」(2005.12.7)
- 麻生太郎外相「ODA・情けは他人のためならず」(2006.1.19)
- 巖善平桃山学院大学教授「中国における農業、農村、農民および農民工 四農問題の実態と政策転換のプロセス」(2006.2.17)
- 麻生太郎外相「日本にとって経済外交とは何か」(2006.3.8)

科 目	年 額	対前年度
[支出の部]		
1.事業費	239,880,000	-2,731,000
借室維持費	176,011,000	-2,226,000
借室料	100,106,000	-2,226,000
共益費	16,640,000	0
空調・光熱・水	9,265,000	0
ホール専用利用費	50,000,000	0
会議費	4,035,000	-505,000
事業運営費	31,672,000	2,000,000
会報発行費	17,300,000	-2,000,000
運営雑費	1,542,000	0
通信費	4,500,000	0
印刷費	3,560,000	0
交通費	1,260,000	0
2.管理費	172,927,000	811,000
(1)人件費	140,455,000	811,000
給与	81,043,000	-4,673,000
賞与・諸手当	57,412,000	5,484,000
厚生費	2,000,000	0
(2)その他の管理費	32,472,000	0
クラブ管理費	23,124,000	0
機器備品費	1,500,000	0
消耗品費	3,500,000	0
事務委託費	3,436,000	0
事務雑費	912,000	0
3.諸引当預金への支出	20,000,000	0
(1)退職準備積立預金	10,000,000	0
(2)資産準備積立預金	10,000,000	0
4.予備費	17,710,000	426,000
小計	450,517,000	-1,494,000
5.特定積立預金支出	240,000	1,000
(1)増加賃料積立預金	132,000	1,000
(2)特別積立預金	23,000	0
(3)クラブ賞積立預金	85,000	0
6.諸積立金支出	5,000,000	5,000,000
(1)退職準備積立預金	0	0
(2)資産準備積立預金	5,000,000	5,000,000
(3)増加賃料積立預金	0	0
(4)特別積立預金	0	0
(5)クラブ賞積立預金	0	0
小計	5,240,000	5,001,000
計	455,757,000	3,507,000

2006年度予算

自 2006年4月1日
至 2007年3月31日

科 目	年 額	対前年度
[収入の部]		
1.会費収入	377,647,000	-518,000
(1)プレス会員会費	319,013,000	-145,000
法人会員会費	216,403,000	531,000
個人A会員会費	26,733,000	-282,000
個人B会員会費	2,492,000	0
個人C会員会費	10,465,000	-61,000
個人D会員会費	62,920,000	-333,000
(2)賛助会員会費	58,634,000	-373,000
法人賛助会員会費	47,508,000	-642,000
個人賛助会員会費	4,118,000	-211,000
特別賛助会員会費	7,008,000	480,000
2.事業収入	71,873,000	-860,000
(1)貸室収入	42,190,000	-1,351,000
(2)飲食売上割戻金	23,670,000	691,000
(3)施設機器賃貸収入	6,013,000	-200,000
3.雑収入	997,000	-116,000
(1)受取利息	604,000	4,000
(2)その他の雑収入	393,000	-120,000
小計	450,517,000	-1,494,000
4.特定預金受取利息	240,000	1,000
(1)増加賃料積立預金	132,000	1,000
(2)特別積立預金	23,000	0
(3)クラブ賞積立預金	85,000	0
5.入会金	0	0
6.特定預金取崩収入	5,000,000	5,000,000
(1)退職準備積立預金	0	0
(2)資産準備積立預金	5,000,000	5,000,000
(3)増加賃料積立預金	0	0
(4)特別積立預金	0	0
(5)クラブ賞積立預金	0	0
小計	5,240,000	5,001,000
計	455,757,000	3,507,000

第67回総会

(3月22日)
宴会場

日本記者クラブ第67回総会
(2005年度臨時総会)は、
3月22日午後3時からクラブ
宴会場で行われた。出席法人

会員28社、委任法人会員10社、
計129社の出席をもって成立
(定足数74社)、滝鼻卓雄理事
長を議長に議事を進めた。

2006年度事業計画および収支予算を理事会案通り可決した後、昨年5月の通常総会以降の役員の一部交代を承認した。

◇ 新年度予算の規模(一般会計)は約4億5000万円、ほぼ前年度並み。2000年度に会費改定してから7回目の予算編成になる。収入の84%を占める会費は、毎年度、2月1日の会員現勢で計算している。前年度の編成時には68人の減少だったが、今回は6人の減に止まった。会員の減少により、雨止めがかかりつつある。

過去6年で予算規模が約1000万円縮小したが、この間①借室維持費と②人件費の軽減に努めた。その結果、この予算では2000年度に比べ、①が1700万円減、②が400万円減になっている。①は(株)日本プレスセンターが坪単価の値下げに応じてくれたためであり、②は専務理事と事務局長を兼務態勢にしたことが大きい。

会 員 異 動 (2005年4月～2006年3月)

月	会員種別	プレス会員								法人・個人賛助会員		特別賛助会員	全 会 員				
		法人	基本	個人A	個人B	個人C	個人D	名誉功労	対前増	対前減	合計		対前月増減				
		(社)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(社)	(人)	(社)	(人)	(人)	(社)	(人)	(社)	(人)
2005.4		147	807	479	67	172	945	10	0	0	74	185	70	221	2735	-2	-2
5		147	807	474	67	170	946	10	0	-6	74	182	71	221	2727	0	-8
6		147	807	474	67	171	943	10	0	-2	74	182	71	221	2725	0	-2
7		147	808	475	68	169	946	10	0	4	73	179	73	220	2728	-1	3
8		146	806	466	69	172	952	10	-1	-1	74	181	73	220	2729	0	1
9		146	805	470	69	174	954	10	0	7	75	184	73	221	2739	1	10
10		146	805	465	68	174	953	10	0	-7	76	186	73	222	2734	1	-5
11		146	806	469	67	173	950	10	0	0	76	186	72	222	2733	0	-1
12		146	806	470	67	173	951	10	0	2	76	186	72	222	2735	0	2
2006.1		146	806	472	67	172	952	10	0	2	77	189	73	223	2741	1	6
2		146	805	474	67	171	953	10	0	1	77	189	73	223	2742	0	1
3		147	807	476	67	170	951	10	1	1	77	188	73	224	2742	1	0

■ 会議報告

2006年度日本記者クラブ賞推薦委員会

(3・1 大会議室)

7候補について審議し、意見を付して4月6日の選考委員会に報告することにした。

出席 細野委員長、相田、佐藤、播谷、吉村、渡辺の各委員。

第165回施設運営委員会 (3・9 シルバールーム)

新委員の高橋淳日本経済新聞総務局総務部長(旧・木舟一郎氏)を紹介した後、1月、2月のアラスカ売上と貸室利用状況を事務局から報告した。

出席 石村委員長、高橋、上滝、加藤、阿部、梅田、池浦、中村の各委員。

第270回会報委員会

(3・13 小会議室)

3月号について意見交換した後、4月号の編集について協議した。

出席 住田委員長、石田、伊藤、仙石、豊田、西田、松本の各委員。

第343回会員資格委員会

(3・13 小会議室)

新委員の高畑昭男毎日新聞説論副委員長(旧・金子秀敏氏)を紹介した後、4月1日付の会員入退会を審査し理事会に答申した。

出席 喜多委員長、石井、高畑、伝川、奥野、田中、今田の各委員。

第352回企画委員会

(3・14 宴会場)

総会記念講演(5月24日)の講師に『国家の品

格』の著者・藤原正彦お茶の水女子大学教授が決まったことを事務局が報告した。司会をした委員から行事報告が行われ、今後のゲスト候補などについて意見を交換した。

出席 宇治委員長、石井、中井(康)、脇、稲田、菅沼、マツカラム、影山、飯野、川戸、井田、角南、和田、岡田(晃)、鳥居の各委員。

第90回総務委員会

(3・15 小会議室)

①2006年度事業計画・回収支予算の原案、②同年度日本記者クラブ賞選考委員会を総務委員会で構成する件を承認し、理事会に上程した。

出席 橋本委員長、国分、宇治、石村、島田、今田の各委員、滝鼻理事長、吉田副理事長、岩崎専務理事。

第421回理事会

(3・15 大会議室)

①2006年度事業計画・回収支予算案を総務委員会案通り承認し、第67回総会に上程することにした。

②2006年度日本記者クラブ賞選考委員会を、クラブ賞内規に従い、総務委員会委員で構成することを決定した。

③第68回総会を5月24日午後3時30分から開催することを決定した。議題は2005年度事業報告、同収支決算報告。

出席 滝鼻理事長、吉田副理事長、岩崎専務理事、橋本、国分、杉江、三橋、妹尾、花田、石村、島田、佐藤(重)、高木、今田、佐藤(嘉)の各理事。野方、笹原の両監事。

情報発信

クラブ施設では会員による各種の会合が行われていきます。企業や大使館などの賛助会員も記者発表の場としてクラブを利用しています。

■有森裕子UNFPA親善大使 エチオピア報告

国連人口基金親善大使として2月にエチオピアを視察したマラソン五輪メダリスト・有森裕子さんの帰国報告会見。この訪問団には読売新聞、東京新聞、共同通信3社の記者が同行した。(3.10 宴会場)

照会先：UNFPA東京事務所 <http://www.unfpa.or.jp/>

■放送ウーマン賞2005授賞式&パーティー

放送界で活躍した女性に贈られる賞。今年の実賞者はTBSの磯山晶ドラマプロデューサーとテレビマンユニオンの大原れいこ取締役。磯山さんは落語ブームの火付け役となったドラマ「タイガー&ドラゴン」のヒットを生み、大原さんはバイオリニスト五嶋龍を10年にわたり取材し連続のドキュメンタリー番組を制作したことが評価された。(3.10 10階ホール)

■日韓シンポジウム「盧武鉉大統領在任3年の評価と今後の日韓関係」(主催：毎日新聞社、韓国大使館)

中曽根康弘元首相と丁世鉉元韓国統一相の特別講演に続いて木宮正史東大大学院助教授、朴明林延世大教授、深川由起子東大大学院教授、姜文秀金融通貨委員会委員らが政治、経済、外交・安保面からこの3年間の日韓関係を総括した。(3.14 10階ホール)

■第7回沖縄マインドの集い・ビジネス交流会

琉球新報連載の「沖縄マインド」で紹介された沖縄県出身の企業家と県内経済人との集い。主催者を代表して比嘉辰博琉球新報社長と比嘉為弘沖縄県産業振興公社専務理事らがあいさつ。県内企業家による会社紹介のプレゼンテーションも行われた。(3.16 10階ホール)

照会先：琉球新報東京支社 Tel：03-5568-6855

■WFP国連世界食糧計画記者会見

前日に開催されたWFP・日本政府政策協議について、ジョン・パウエルWFP事務局長と神余隆博外務省国際社会協力部長が会見。日本がWFPを通じて約13億円の食糧援助を行うこと等が報告された。(3.17 宴会場)

照会先：WFP国連世界食糧計画 <http://www.wfp.or.jp/>

■tvk 2006年度4月期編成社長会見

テレビ神奈川の牧内良平社長らが新年度の事業などを発表。ワンセグ放送の開始や「横浜ニュースハーバー」の開設(7月)など、本格的なデジタル放送時代に向けて態勢をより強化していくと語った。(3.20 宴会場)

照会先：tvk編成部 Tel：045-651-1713

■「林野庁の伐採中止を求め小泉首相へ意見書」会見

国際自然保護連合生態系管理委員会の河野昭一副委員長が林野庁の国有林乱伐に関する意見書を3月23日、小

新しいOB会員

泉首相に提出した。無原則な「天然林」の伐採によって日本古来の自然体系が消滅の危機にあるとして緊急な改善を求めた。

照会先：河野昭一京大名誉教授 Tel：0774-25-5158
E-mail：kawano.shoichi@a0016656.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

■テレビ大阪「おねがいマイメロディ〜くるくるシャッフル!〜」完成披露試写会

人気アニメの新シリーズスタートの披露会見。キャラクター登場の後、同社の三浦昇東京支社長らがあいさつ、第一話の試写が行われた(テレビ東京系列6局で放送)。

照会先：テレビ大阪東京支社 Tel：03-3543-7777

■臓器移植患者連絡会・移植関連学会合同記者会見

国会に臓器移植法改正案2案が提出されたのを受けて関係団体代表や医師らが会見した。本人の拒否がない限りは年齢制限なく家族の同意だけで提供できるとする案への支持を発表し、早期の成立を要望した。

照会先：NPO日本移植者協議会 Tel：06-6360-1180

バー、レストラン、宴会

予約電話 和食3503-2723 洋食3503-2766

**吉 富
カクテル****4月：Cocktail Bunny
くしあわせウサギ>**

干支をテーマにしたオリジナル・カクテルの第4弾です。カルヴァドス（りんごのブランデー）、メイプルシロップ、レモン&オレンジジュースなどでアレンジしました。とてもさわやかなカクテルです。

和 食**春爛漫懐石コース（～5月2日）**

春を演出した懐石コースを今年も用意しました。ご家族や同僚、友人たちとのプライベートな会食にもご利用ください。お一人5250円です。（板長：薬科浩）

先付：湯葉豆腐 椀盛り：鮎魚女桜餅見立て 刺身：花山（三点盛り） 焼物：いさき塩焼き 煮物：加茂茄子丸煮 揚物：鱧磯部揚げ 食事：桜そば 水菓子：グレープフルーツ

洋 食**初夏のヘルシーコース（5月15日～6月30日）**

和牛もも肉の薄切りと野菜のオイスター炒めがメインディッシュです。前菜、デザートを含めても424キロカロリーにおさえたので、ダイエット指向の方にピッタリです。コーヒー、パンがついて2890円です。ランチタイムにも提供します。

アサリのリゾットの上に桜鯛の油炒めをのせた“洋風鯛飯”がメインの春の特別コース（2890円）は5月12日までです。（シェフ：黒須修一）

8月の貸室料金 半額になります

各社の利用が少ない8月のお部屋を会員の皆さんに有効に利用していただくという案内です。この期間、宴会プランも値下げしますので、例えば10人ほどで小会議室を立食で使った場合、お一人5000円ほどの会費ですみます。クラス会や同窓会など“夏の思い出”の会合を8月にセットしてみたいかでしょうか。お申し込みは貸室担当へ（03-3503-2724）。

訂正 3月号の「韓国取材団」報告の中で紹介した、ソウル大学の朴哲熙教授の名前は朴喆熙氏の誤りでした。おわびして訂正いたします。

クラブの電話 ダイヤルイン

和食レストラン（9階）	会員事務
3503-2723	3503-2725
洋食レストラン（10階）	経 理
3503-2766	3503-2728
貸室予約、宴会打ち合わせ	
3503-2724	
受 付	会見申し込みアドレス
3503-2721	kaiken@jnpc.or.jp
クラブ行事への申し込み	URLアドレス
3503-2722	http://www.jnpc.or.jp

会報委員会

委員長＝住田良能

委員＝石田昭彦 伊藤三郎 仙石伸也 高橋利行
豊田 宰 西田善夫 松本侑壬子

連絡＝長谷川和子 本庄五月

（電話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271）

総会記念講演は藤原正彦氏

今年の通常総会は5月24日（水）に行われますが、恒例の総会記念講演には『国家の品格』の著者、藤原正彦お茶の水女子大学教授を迎えます。時間は4時半からです。引き続き、5時半から会員懇親会も行われます。あらためてご案内しますが、ご予約おきください。

日本サムスンが入会しました

4月1日付で日本サムスンが法人賛助会員として入会しました。登録会員は李昌烈代表取締役社長と方常源常務取締役のおふたりです。4月現在、法人賛助会員は75社183人です。

招待券 ご寄贈いただきました

朝日新聞社『詩人の眼—大岡信コレクション展』『ボンペイの輝き』『エルンスト・バルラハ』読売新聞社『最澄と天台の国宝』『プラド美術館展』日本経済新聞社『手塚雄二—花月草星展』『ナポレオンとヴェルサイユ展』『カルティエ現代美術財団コレクション展』『絹谷幸二展』東京新聞 『ニキ・ド・サンファル展』

<訃報>

宮崎吉政会員（読売出身、90歳）が3月3日に、萩原宏平会員（NHK出身、79歳）が同12日に、藤川魏也会員（広島テレビ放送会長、元日本テレビ常務、73歳）が同15日に死去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

<会員現況> 法人会員 147社 基本会員 809人
個人会員 1,664人 法人・個人賛助会員 75社 183人
特別賛助会員 74人 名誉・功労会員 10人
計 222社 2,740人

今後の行事予定（4/3現在）

4. 11（火）14：00～14：50（宴会場）
ベネマン ユニセフ事務局長記者会見
4. 12（水）12：00～13：30（10階ホール）
増田寛也岩手県知事昼食会
4. 17（月）12：00～14：00（10階ホール）
平山正剛日弁連会長昼食会
4. 18（火）15：00～16：00（宴会場）
パラリンピック金メダリスト・大日方邦子さんを囲む会
4. 21（金）15：00～16：30（10階ホール）
鈴木修スズキ会長を囲む会
4. 25（火）15：00～16：30（10階ホール）
シリーズ研究会「中国経済⑨ 中国の社会保障 高齢者・年金・医療対策」沈潔瀟和大学教授
4. 28（金）14：00～15：00（10階ホール）
広瀬道貞民放連会長記者会見

*出席を希望される方は事前にお申し込みください。会場設営や資料コピーの参考にしています。

*会見の案内を電子メールでお送りすることもできます。希望される方は、メールアドレス、社名、氏名を明記したメールを、kaiken@jnpc.or.jpへお送りください。

行事案内専用電話 03-3503-3764

日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をテーブルでお知らせしています。

写真回廊

撮影 伊禮 健 (沖縄タイムス
写真部)



名護市大浦湾海中

名護の海

沖縄へ行くたびに申し訳ない気持ちになる。いたるところで基地にぶつかり、戦いの傷跡に出会う。「安保の丘」から嘉手納基地の異形の軍用機を眺めて圧倒されたこともある。

沖縄県のホームページは淡々と書く。本県における米軍基地。県土面積に占める割合10・4%、地域面積に占める割合…沖縄本島18・8%、米軍施設・区域の全国比…全国に占める本県の比率27・4% (施設数) 23・4% (面積) ……。

普天間飛行場返還に伴う代替海上施設の建設地もやはり沖縄だった。名護市の沿岸部、大浦湾を埋め立てて滑走路や駐機場をつくるという。しばらく、このニュースが新聞に載らない日はなかった。

だが、この大浦湾にはサンゴの大群落が広がり、デイズニー映画「ファインディング・ニモ」で一躍有名になったカクレクマノミが群をなして生息しているのだという。よりによって、スター級の生物の登場である。

撮影者たちは海に潜っては、やがて失われてしまうかもしれない、サンゴやイソギンチャクと愛くるしい魚たちとの共生の姿を写しとっている。それは、人間に傷つけられて日々姿を変えてゆく地球へのオマージュでもある。

(有馬真喜子)